

【23-01】成道——村の乙女の供養

成道しようとする菩薩に村の乙女（スジャーター〔Sujātā〕あるいはナンダバラ（Nanda-balā）など）が特別に精製した乳糜を供養する(1)。

[A] 原始聖典

- ① ‘Buddhavaṃsa’ 02-62 (p.013) ; 如来はアジャパーラニグローダ樹の下に坐って、そこで乳糜を受け取り (pāyāsam-aggayha)、ネーランジャラー河に行くであろう (Nerañjaram upehiti)。勝者はネーランジャラー河の岸辺で乳糜をすすり、菩提樹の下に近づき、菩提道場 (bodhimaṇḍa) を右邊して、アッサッタ樹の下で覚るであろう。
- ④ 雜阿含604 (大正02 p.167上) ; 此処二女奉菩薩乳糜。
- ⑩ 根本有部律「泥薩祇波逸底迦004」 (大正23 p.717上) ; 修苦行已後便随意欲受上妙飲食。即以飯食及諸蘇油遍塗身體、以暖湯水而為沐浴。遂便往詣勝軍聚落二牧牛女所。一名歡喜、二名喜力。受十六倍乳糜飽足食已。
- ⑩ 根本有部律「苾芻尼波羅市迦001」 (大正23 p.911上) ; 於歡喜歡喜力二牧牛女處、食十六倍乳糜。
- ⑩ 根本有部律「苾芻尼泥薩祇波逸底迦004」 (大正23 p.948中) ; 爾時菩薩於六年中一無所有、修苦行已後便随意欲受上妙飲食。即以飯食及諸蘇油遍塗身體、以暖湯水而為沐浴、遂便往詣勝軍聚落二牧牛女所、一名歡喜、二名歡喜力。受十六倍乳糜飽足食已。
- ⑩ 根本有部律「出家事」 (大正23 p.1026下) ; 便即往詣軍營聚落、受歡喜歡喜力二牧牛女十六倍乳糜、菩薩食已。
- ⑩ 根本有部律「破僧事」 (大正24 p.121下) ; 菩薩爾時、漸加飲食身力強健。即往西那延村(唐言會軍村也)彼有村主、名為軍將。將有二女、一名歡喜、二名歡喜力……。時二女人、即持其乳粥往尼連禪河、將施菩薩。
- ⑩ 根本有部律「雜事」 (大正24 p.299下) ; 遂即住情而為遊縱、噉好飲食酥油塗身、湯水澡浴往聚落中、於難陀難陀力二牧牛女所、食十六倍上妙乳糜。
- ⑩ 根本有部律「雜事」 (大正24 p.395中) ; 菩薩觀知老病死已、情生憂惱依託林野修諸苦行後食二牧牛女十六倍乳糜、氣力宣通食諸飲食、沐浴形體塗拭蘇油。

[B] 仏伝經典

- ① NK. (vol. I p.068, 南伝28 p.144) ; 優樓頻螺 (Uruvelā ウルヴェーラー) のセーナーニー (Senānī) 村に、セーナーニー長者の家に生まれたスジャーター (Sujātā) という年頃の娘がいて、……大士が苦行をして満六年に (chaṭṭhe vasse paripuṇṇe) 達せられた時、彼女は毘舍佉月の満月の日に (Visākhapuṇṇamāya) 捧げ物をしようと思って、……金の鉢と一緒に乳粥を大士の手の上に載せると……。
- ② 修行 (大正03 p.469下) ; 便感斯那二女、使於夢中見天下尽成為水、中有一花七宝光色。……天帝……為女解夢言。汝見天下水中生一花者、是白淨王太子初生時、今在樹下六年、身羸形瘦、是花萎時、見一人水灑更生者、是能獻食者。
- ④ 瑞応 (大正03 p.479上) ; 復有長者女。……女令婢戴百味之糜置頭上、前長跪上食并金鉢。
- ⑥ 普曜 (大正03 p.511下) ; 菩薩修勤苦行竟六年已。……時有丘聚名曰修舍慢加。有長者女。……即取乳糜盛滿金鉢。
- ⑦ 方広 (大正03 p.583上) ; 菩薩苦行已來優婁頻螺聚落主、名曰斯那鉢底。有十童女、……其最小者。名曰善生……時善生女即以金鉢盛滿乳糜持以奉獻……。

- ⑧LV. (Lef. p.265, 溝口 p.239) ;かの菩薩が苦行の実践を始められた最初の月から、この村の村長の十人の若い娘達は、かの菩薩を見に来て、挨拶し、奉仕した。……村長の若い十人の若い娘の名はバラ（Balā）、バラグプター（Balaguptā）、スプリヤー（Supriyā）、ヴィジャヤセナー（Vijayasenā）、アティムクタカマラー（Atimuktakamalā）、スンドリー（Sundarī）、クンバカーリー（Kumbhakārī）、ウルヴィリッカー（Uluvillikā）、ジャティリカー（Jaṭṭilīkā）、及びスジャーター（Sujātā）である。……ウルヴィルヴァーのセナーパティ村の（*uruvilvāsenāpatigrāmake*）ナンディカ（Nandika）村長の娘スジャーターは蜂蜜入りの乳粥を黄金の鉢に満たして菩薩に捧げた。
- ⑩仏讃（大正04 p.024下）；有一牧牛長 長女名難陀 淨居天來告 菩薩在林中 汝應往供養 難陀婆羅闍 歡喜到其所 …… 敬奉香乳糜
- ⑫BC. (12-109) ; ……牛飼いの長の娘ナダバラ（Nandabalā）は神々に唆されて……その場にやってきた。……彼女は信心に歡喜いや増して、……頭を垂れてその足下にひれ伏し、彼に牛乳をささげ、それを摂らせたのであった。
- ⑬行経（大正04 p.075中）；至他閑處 於是便受 喜悅喜力 二女乳糜 甘露之施
- ⑭過去（大正03 p.639中）；時彼林外、有一牧牛女人、名難陀波羅。時淨居天、來下勸言、太子今者在於林中、汝可供養。女人……即取乳糜、至太子所、頭面禮足、而以奉上。
- ⑮集経（大正03 p.770中）；爾時軍將斯那耶那婆羅門家、有於二女、一名難陀（隋言喜）、二名婆羅（隋言力）。……爾時軍將二女、聞父如是勅已、將於家常所有之食及油酥等、至於菩薩苦行之處、……奉上菩薩。
- ⑯集経（大正03 p.771下）；（苦行後）唯願尊者、受我此鉢和蜜乳糜。
- ⑰MV. (vol. II p.205, Jones II p.195) ; 徐々に体力を回復し、彼の欲する食物を求めてウルヴィルヴァー（*Uruvilvā*）へ向われた。その時、前世において彼（菩薩）の母親であったスジャーター（*Sujātā*）が乳粥を持って、ニャグローダ（*Nyagrodha*）樹の根元に立った。
- ⑱衆許（大正03 p.949中）；其聚落内有二童女、一名難那、二名難那末羅。……以鉢盛粥虔心上献。菩薩默然而受其供食已、擲鉢入尼連河。

[C] 後世の仏伝資料

- ①釈迦（大正50 p.007下）；時有長者女、……即取乳糜盛滿金鉢。（出普曜経）
- ③氏譜（大正50 p.091中）；有牧牛女、淨居天勸令施乳糜、……呪願受食。
- ④統紀（大正49 p.145中）；時彼林外有一牧牛女、名難陀婆羅。有淨居天、來下勸言、汝可供養。女人聞……上有乳糜即取奉上。
- ⑤JM. (p.028, 畑中 p.105) ; ヴェーサーカの月の満月の日に（*Visākhapuṇṇamāya*）スジャーター（*Sujātā*）によって与えられた蜜粥を食べ……。
- ⑥Bigandet. (vol. I p.077, 赤沼 p.103) ; その時、優留毘羅聚落には斯那（*Thenā*）と名くる富者が住っていたが、彼に修闍多（*Thoodzata*）という娘があった。……「酥油を盛った金の鉢を献り……。」

(1) 村の乙女の供養は5人の侍者が立ち去る前とするものもある。[A] の⑩、[B] の⑩⑫⑭⑮である。

【23-02】成道----ネーランジャラー河で沐浴する

菩薩がネーランジャラー (Nerañjarā) 河に入り、沐浴した後で、村の乙女から供養されていた食事を食す。

[A] 原始聖典

- ⑦四分律「受戒毘度」(大正22 p.781上) ; 時菩薩氣力已充、復詣尼連禪水側、入水洗浴身已出水上岸、往菩提樹下。
- ⑩根本有部律「泥薩祇波逸底迦004」(大正23 p.717上) ; 修苦行已後便随意欲受上妙飲食即以飯食及諸蘇油遍塗身體、以暖湯水而為沐浴。
- ⑩根本有部律「破僧事」(大正24 p.122上) ; 時二女人、即持其乳粥往尼連禪河、將施菩薩。

[B] 仏伝經典

- ①NK. (vol. I p.070, 南伝28 p.148) ; そこで菩薩は、自分の坐って居る処から立ち上がり、……尼連禪河 (ネーランジャラー Nerañjarā) 河の岸に行き、……スッパティッティタ (Suppatiṭṭhita) という水浴場……下りて行って水浴をなし、……衣服……を着けて……東の方を向いて坐し、……乳粥を残さず召し上った。
- ②修行 (大正03 p.470上) ; 菩薩意念、欲先沐浴然後受糜。行詣流水側、洗浴身形、浴訖欲出水、天神按樹枝。
- ④瑞応 (大正03 p.479上) ; 仏初得道、自知食少身體虚軽。徐起入水洗浴、畢欲上岸。天按樹枝、得攀而出、旋往樹下。
- ⑥普曜 (大正03 p.512上) ; 菩薩知之、即以神通慧力、還江水辺、忽然而度。隨其習俗示現、入水而自洗浴。時八萬天子各按樹枝供養菩薩、菩薩牽枝出在岸辺。
- ⑦方広 (大正03 p.583下) ; 爾時菩薩攀彼乳糜、出優婁頻螺聚落、往尼連河置鉢岸上、剃除鬚髮入河而浴。
- ⑧LV. (Lef. p.269, 溝口 p.242) ; そこで、かの菩薩は施し物の入ったこの鉢をもって、ウルヴィルヴァー (Uruvilvā) から出て、午前中にナーガ (龍) の河であるナイランジャナー (Nairañjanā) 河の辺に達し、施し物の入った鉢と衣とを傍らに置いて、手足をさっぱりさせるために流れの中に入れられた。
- ⑩仏讃 (大正04 p.024下) ; 思惟斯義已 澡浴尼連濱 浴已欲出池 羸劣莫能起 天神按樹枝 举手攀而出
- ⑫BC. (12-108) ; (川で) 沐浴をなしたのち、……枝々の先を垂らしている河畔の木々に手を差し伸べられて、この瘦軀を持する彼はナイランジャナー (Nairañjanā) 河のほとりより静かに立ち上がり、河を越えていった。
- ⑭過去 (大正03 p.639中) ; 即從坐起、至尼連禪河、入水洗浴。洗浴既畢、身體羸瘠、不能自出。天神來下、為按樹枝、得攀出池。
- ⑮集経 (大正03 p.772上) ; 從於優婁頻蠡聚落正念而出、安庠漸至尼連河岸、……脱衣入彼河中、澡浴除身熱氣。……六年精勤苦行、身力劣弱、不能得濟彼河之岸。……菩薩、執樹神手、(一大樹名頽誰那(隋言今者)、彼樹之神、名柯俱婆(隋言小峰。)) 得渡彼河。
- ⑯MV. (vol. II p.263, Jones II p.248) ; その時、夜明けに向うころ菩薩はナイランジャナー (Nairañjanā) 河に入られた。河の中で手足を冷やし、菩提樹に向けて出発された。
- ⑰衆許 (大正03 p.949中) ; 爾時菩薩浴尼連河水、體羸力弱拳步攸艱、岸樹垂枝攀而得出。即往西曩野儻聚落之所。

[C] 後世の仏伝資料

- ③氏譜（大正50 p.091中）；即從坐起、入河洗浴。身体羸瘦天為按樹、得攀出池。
- ④統紀（大正49 p.145上）；四年癸未……即至泥連禪河、洗浴身体。
- ⑤JM. (p.028, 畑中 p.105) ；ヴィサーカー月の満月の日に（*Visākhapuṇṇamāya*）、……ネーラ
ンジャラー（*Nerañjarā*）の岸辺にあるサーラ（*Sāla*）樹林において昼住をして、……。 （沐浴
したとの記述なし）
- ⑥Bigandet. (vol. I p.082, 赤沼 p.110) ；菩薩は立ち上り、自ら金鉢を取り、尼連禪河
（*Neritzara*）の辺に赴き給うた。その場所は嘗て十萬の過去の諸仏がその成道前に沐浴し給うた
場処であつて、この河の岸に沐浴場があつた。

【23-03】成道——前正覺山に上る

菩薩が石山に上つて成道しようとするが、そこが金剛座ではなかつたので碎ける。

[A] 原始聖典

- ⑩根本有部律「破僧事」（大正24 p.122中）；菩薩因食乳粥、氣力充盛六根滿實、於尼連禪河岸
遊行觀察、覓清淨処將欲安止、見孤石山有雜華菓莊嚴困遶。菩薩見已即登此山、平整石上結跏趺
坐。爾時此山忽自裂碎……。今之此地、非是菩薩成菩提処。……所以此山自然摧碎。今過尼連禪
河東有金剛地。彼処過現未來諸如來等皆於其上得最勝智。

[B] 仏伝經典

- ⑩衆許（大正03 p.949下）；菩薩拳身登一石山、峭峻孤拔林樹甚衆。於此安坐未逾時刻、山即摧
毀。菩薩驚怪茲何業緣。時淨光天子白菩薩曰、萬行今円四智將就、此地薄祐而不能勝、去此不遠
有金剛座、三世如來成正覺処。

[C] 後世の仏伝資料

【23-04】成道——龍王カーリカの讚歎

菩薩が悟りを開くことを知つた盲目の龍王カーラ（*Kāla*）（あるいはカーリカ〔*Kālika*〕）が
河底から出てきて、菩薩を讚歎する。

[A] 原始聖典

- ④雜阿含604（大正02 p.167上）；此処迦梨龍讚歎菩薩。
- ⑩根本有部律「泥薩祇波逸底迦004」（大正23 p.717上）；復詣善行男子所取吉祥草。時黑龍王讚
歎菩薩。向善提樹……。
- ⑩根本有部律「苾芻尼波羅市迦001」（大正23 p.911上）；龍王讚歎於負芻人吉祥之処受柔軟草。
即便往詣菩提樹下。
- ⑩根本有部律「苾芻尼泥薩祇波逸底迦004」（大正23 p.948中）；復詣善行男子所取吉祥草。時黑
龍王讚歎。菩薩向善提樹下。
- ⑩根本有部律「出家事」（大正23 p.1026下）；便即往詣軍營聚落、受歡喜歡喜力二牧牛女十六倍
乳糜、菩薩食已。時有黑色龍王、讚言善哉。
- ⑩根本有部律「破僧事」（大正24 p.122下）；尼連禪河龍、名伽陵伽、以先業緣住此河中。兩目

皆盲。若仏出世眼即得明、若仏滅後其眼還盲。聞地震声疑仏出世、從宮出看。忽見菩薩具三十二相八十種好円光一尋、如千日輝、如大宝山周遍嚴飾。

- ①根本有部律「雜事」（大正24 p.299下）；於難陀難陀力二牧牛女所食十六倍上妙乳糜。迦利迦龍王尊重讚歎。於善吉迦取吉祥草。

[B] 仏伝經典

- ①NK. (vol. I p.070, 南伝28 p.149) ; (乳粥を喫して金鉢を河に投げる) 鉢は……逆流して上って……沈んで迦羅龍王 (Kālanāgarājan) の宮殿に至り、……音を立てて……止った。迦羅龍王はその音を聞いて、「……今日亦一人〔の仏〕が出で給う」と……数百句〔の詩〕を以て讚意を述べた。
- ②修行 (大正03 p.470上) ; 当過瞽龍池時、龍大歡喜、出見菩薩。便說偈言……。
- ④瑞応 (大正03 p.479上) ; ……今皆在文隣龍所、仏即擲鉢水中。龍王歡喜、知復有仏。仏定意七日、不動不揺。
- ⑥普曜 (大正03 p.514中) ; 菩薩身光照迦林龍王宮。……爾時龍王見斯光明、目即得開、與眷属前而讚歎曰。
- ⑦方広 (大正03 p.586中) ; 此光又照迦利龍王宮。時彼龍王遇斯光明、於龍衆中而說偈言……。
- ⑧LV. (Lef. p.281, 溝口 p.253) ; ナーガの王であるカーリカ (Kālīka-Nāgarājan) の住いが、かの菩薩の体から発する光によって照らされた。……これを見て、龍の王であるカーリカは從者達がいる所で次の詩句を唱えた。
- ⑩仏讚 (大正04 p.024下) ; 歩歩地震動 地動感盲龍 歡喜目開明 言…… 牟尼德尊長 大地所不勝
- ⑫BC. (12-116) ; そのとき、……蛇の長 (bhujagottama) カーラ (Kāla) は、この (近づいてくる) 偉大なる聖者の比類なき足音に眼を醒まされ、彼がさとりに決意を固めたのを知って、つぎのように彼に賛辞を呈した。「……あなたは、かならずや今日覺者となられるでありますよう」
- ⑬行經 (大正04 p.075中) ; 於是大驚 衆龍之王 聞足觸地 震動好声 …… 世之將導 衆師之師 其足觸地 震動如是
- ⑭過去 (大正03 p.639中) ; 爾時盲龍、聞地動嚮心大歡喜、兩目開明。……從地踊出、禮菩薩足。
- ⑮集經 (大正03 p.772上) ; 爾時彼河尼連禪主、有一龍女、名尼連茶耶(隋言不寡)。……筌提、奉獻菩薩。
- ⑮集經 (大正03 p.774上) ; 爾時彼地、有一龍王、名曰迦茶(隋言黑色)……。見大地動、……知此菩薩大士、當得證於阿耨多羅三藐三菩提。
- ⑮集經 (大正03 p.800上) ; 爾時迦羅龍王(隋言黑色)、詣於仏所。……(成道後) 仏受三自歸依、歸依仏歸依法歸依僧。復受五戒、於世間中、最初而得優婆塞名。
- ⑯MV. (vol. II p.265, Jones II p.249) ; 竜王 (nāgarājan) カーラ (Kāla) は、菩薩が畏れなく堂々として進まれるのを見て言った。「自分の道を進まれよ、救済者よ。今日中に無上の完全な悟りに目覚められるであろう」
- ⑰衆許 (大正03 p.950上) ; 至一大窟内有黒龍。昔無兩目、聞地振海潮、……双眼頓明。……龍大歡喜瞻視恋仰、而說偈言。

[C] 後世の仏伝資料

- ①釈迦 (大正50 p.031上) ; 爾時盲龍聞地動響、心大歡喜……。
- ③氏譜 (大正50 p.091下) ; 盲龍得眼見瑞讚頌。
- ⑤JM. (p.028, 畑中 p.105) ; 黄金の容器を取ってネーランジャラー (Nerañjarā) 河の流れに逆

らって投げて、眠っているカーラ (Kāla) 竜王を起こし……。

- ⑥Bigandet. (vol. I p.083, 赤沼 p.111) ; 菩薩は直にその金鉢を水上に投げ入れ給うたが、…
…黄金の鉢は……竜宮城に下って行いた。……この異常の物音を聞いて、龍王 (Nagas) はその
長い眠りより醒め、……一百句よりも多い讃歌を我が仏陀に奉ったのである。

【23-05】成道----草刈り人のクサ草献上

菩薩が菩提樹下に向う途中で草刈り人に会い、クサ草 (kusa、吉祥草) を貰ってこれを敷き、
禪定に入る。

[A] 原始聖典

- ③中阿含204「羅摩経」(大正01 p.777上) ; 即便持草往詣覺樹、到已布下敷尼師檀結跏趺坐。
- ⑥増一阿含31-08(大正02 p.671下) ; 是時去我不遠有吉祥梵志在側刈草。即往至彼、問。汝是
何人、為名何等、為有姓耶。梵志報曰。我名吉祥、其姓弗星。……爾時吉祥躬自執草詣樹王所。
- ⑦四分律「受戒度律」(大正22 p.781上) ; 時去樹不遠、有一人刈草、名曰吉安。菩薩前至此人
所語言。我今須草見惠少多。吉安報曰、甚善不為愛惜。即授草與菩薩。菩薩持草、更詣一吉祥樹
下、自敷而坐。
- ⑧五分律「受戒法」(大正22 p.102下) ; 菩薩便向菩提樹。去樹不遠見一人刈草。名曰吉安從乞
少草、持至樹下敷已結跏趺坐。
- ⑩根本有部律「泥薩祇波逸底迦004」(大正23 p.717上) ; 復詣善行男子所取吉祥草。時黑龍王讚
歎菩薩。向菩提樹下手自布草不令聊亂。跏趺而坐。
- ⑩根本有部律「苾芻尼波羅市迦001」(大正23 p.911上) ; 龍王讚歎於負芻人吉祥之処受柔軟草。
即便往詣菩提樹下。
- ⑩根本有部律「苾芻尼泥薩祇波逸底迦004」(大正23 p.948中) ; 詣善行男子所、取吉祥草。
- ⑩根本有部律「出家事」(大正23 p.1026下) ; 復有一人、名曰常住。授與菩薩吉祥草已、即詣菩
提樹下自敷斯草。其草不乱、便即右旋。於此草上結跏趺坐、端身正念、便即發要期之心我若諸漏
不尽。
- ⑩根本有部律「破僧事」(大正24 p.122下) ; 爾時菩薩聞伽陵伽龍王讚已、詣金剛地作是念云。
我應須草。于時帝釈知菩薩心、即往香山、取彼柔軟吉祥妙草、即自變身作傭力者、持吉祥草至菩
薩前。菩薩見已即從乞之。帝釈前跪奉施菩薩。既得草已。即詣菩提樹下欲敷草坐、草自右旋。
- ⑩根本有部律「雜事」(大正24 p.299下) ; 迦利迦龍王尊重讚歎。於善吉迦取吉祥草、詣菩提樹
下自敷草已、端身正念加趺而坐。

[B] 仏伝經典

- ①NK. (vol. I p.070, 南伝28 p.150) ; この時、ソッティヤ (Sotthiya 吉祥) という草刈男
が草 (tina) を持って向うの方からやって来て、大士の様子を見てそれと知って、八攪みの草を
献じた。
- ②修行(大正03 p.470上) ; 見一刈草人、菩薩便問曰。今汝名何等、我名為吉祥、今刈吉祥草。
今汝施我草、十方皆吉祥。
- ④瑞応(大正03 p.476下) ; 菩薩即拾藁草、以用布地。
- ⑤異出(大正03 p.620上) ; 太子遂入深山無人之処、取地高草、於樹下正坐。
- ⑥普曜(大正03 p.514下) ; 於時菩薩見路右辺、有一人名曰吉祥、刈生青草柔軟滑沢。……時菩
薩見、即便越道詣吉祥所、……吾欲得草吉祥與我、今日欲得。

- ⑦方広（大正03 p.587上）；時釈提桓因即變其身、為刈草人……持草而立。……我名吉祥。
- ⑧LV. (Lef. p.286, 溝口 p.257)；かの菩薩は道の右側に牛飼いのスヴァスティカ (Svastika) を認められた。この男は緑の芝草、柔らかくて新しく、気持ちの良い芝草を刈っていた。
- ⑩仏讚（大正04 p.025上）；從彼穫草人 得淨柔軟草 布施於樹下 正身而安坐
- ⑫BC. (12-119)；蛇の長によって（このように）たたえられてから、彼は草穫人より清浄な草を受けとり、さとりに向って誓いを新たにし、清浄な大樹の根元によって（その草を敷き、その上に）坐した。
- ⑬行経（大正04 p.075下）；吉祥持草 奉迎而進 …… 受柔軟草 散金剛座 草皆齊整 結跏趺坐
- ⑭過去（大正03 p.639下）；釈提桓因、化為凡人。執淨軟草、……名吉祥。……於是吉祥、即便授草、以與菩薩。
- ⑮集経（大正03 p.773上）；是時忉利帝釈天王、……即化其身、為刈草人。……我名吉利。
- ⑯MV. (vol. II p.264, Jones II p.249)；ナイランジャンナー (Nairamjanā) 河と菩提樹との間の途中で、菩薩は吉祥草刈人 (Svastika Yāvasika) が藁の束を持っているのを見た。菩薩は彼に近づき藁を求めた。彼は菩薩に藁を差し上げた。
- ⑰衆許（大正03 p.950上）；……菩薩思念、以吉祥草鋪金剛座。天主帝釈即時化身、往香醉山取吉祥草。其草柔軟如兜羅綿、詣菩提樹前陳金剛座上。

[C] 後世の仏伝資料

- ①釈迦（大正50 p.007下）；路右一人名曰吉祥。又生青草柔滑不乱。（出普曜経）
- ①釈迦（大正50 p.031中）；釈提桓因化為凡人。（出因果経）
- ③氏譜（大正50 p.091下）；同過去仏以草為座。帝釈化人執淨軟草。受已敷坐。
- ④統紀（大正49 p.145中）；釈提桓因化為凡人、執淨軟草至菩薩前。……名吉祥。……乃敷以為座結跏趺坐。
- ⑤JM. (p.028, 畑中 p.105)；夕暮れ時、菩提樹に向かつて出発した。そして、彼が入るときに草刈り人ソッティヤ (Sotthiya) によって与えられた手いっぱい草を敷いて東方に向かつて坐した。
- ⑥Bigandet. (vol. I p.084, 赤沼 p.111)；菩薩はこの菩提樹へ赴く途中、野にて刈り集めた草を持って帰り来る若者に会い給うたが、若者は菩薩の草を要し給うを知って、八抱の草を奉った。

【23-06】成道——菩提樹下の誓い

菩薩が菩提道場に坐し、悟りを開くまで座を立たないと誓う。

[A] 原始聖典

- ③中阿含204「羅摩経」（大正01 p.777上）；結跏趺坐、要不解坐至得漏尽。我便不解坐至得漏尽。
- ⑩根本有部律「泥薩祇波逸底迦004」（大正23 p.717上）；向菩提樹下手自布草不令聊乱、跏趺而坐、端身正意、心念口言。若我諸漏未断尽者我終不解此跏趺坐。是時菩薩未解跏趺衆惑皆尽。
- ⑩根本有部律「苾芻尼泥薩祇波逸底迦004」（大正23 p.948中）；菩薩向菩提樹下、手自布草不令撩乱、加趺而坐、端身正意心念口言。若我諸漏未断尽者我終不解此加趺坐。
- ⑩根本有部律「出家事」（大正23 p.1026下）；即詣菩提樹下自敷斯草。其草不乱即便即右旋。於此草上結跏趺坐、端身正念。便即發要期之心我若諸漏不尽、終不起于此座。爾時菩薩未證悟。
- ⑩根本有部律「破僧事」（大正24 p.122下）；自念云。我於今日證覺無疑、即昇金剛座結跏趺坐

猶如龍王、端巖殊勝其心專定。口作是言。我今於此不得盡諸漏者不起此座。

- ①根本有部律「雜事」（大正24 p.299下）；詣菩提樹下自敷草已、端身正念加趺而坐、心念口言若不斷盡諸漏我終不解加趺。

[B] 仏伝経典

- ①NK. (vol. I p.071, 南伝28 p.151) ; 菩薩は菩提樹の幹を後にして東の方に向い堅い心を以て「仮令我が皮膚も筋の骨も乾び、全身の肉も血も干乾びるとも、我は正覺を成ぜずばこの跏趺坐を解くまい」
- ②修行（大正03 p.470中）；若我不得道 終不離三誓 言我肌骨枯 不動会当成。
- ④瑞応（大正03 p.476下）；一心誓言。使吾於此肌骨枯腐、不得仏終不起。
- ⑤異出（大正03 p.620上）；一心自念言。今日飢骨筋髓、皆枯腐、於此不得仏不起。
- ⑥普曜（大正03 p.515中）；菩薩自誓。使吾身壞肌骨枯腐其身碎尽、不成仏道終不起也。
- ⑦方広（大正03 p.588上）；端身正念 発大誓言 我今若不證 無上大菩提 寧可碎是身 終不起此座
- ⑧LV. (Lef. p.289, 溝口 p.260) ; ここで、この座の上で、たとえ私の体が干からびようとも、私の皮膚が、骨が、肉が溶け去ろうとも！この、幾多のカルパの時間の中で、獲得することの困難な智慧を獲得することなしに、私の体がこの座から動くことはない！
- ⑨僧伽（大正04 p.123上）；復作是念。我不解加趺坐、不逮一切智不起于座。
- ⑪仏讚（大正04 p.025上）；要不起斯坐 究竟其所作 発斯真誓言
- ⑫BC. (12-120) ; ……「余は目的を完遂するまでは断じてこの坐をくずすことなかるべし」と念じて、彼は眠れる蛇のとごろのように身体を凝縮して、最上かつ不動なる結跏趺坐を組んだ。
- ⑬行経（大正04 p.076上）；仮令四大 捨其本性 日月墮地 須彌昇空 如是衆事 可有變異 吾終不違 是願要誓 歎誓願已
- ⑭過去（大正03 p.639下）；而於草上、結加趺坐、如過去仏所坐之法、而自誓言。不成正覺、不起此座、我亦如是発此誓時。
- ⑮集経（大正03 p.779中）；爾時菩薩、坐彼菩提樹下之時、発是要誓。我不成道、不起此座。
- ⑯MV. (vol. II p.268, Jones II p.252) ; 菩薩は菩提樹の下に来て、藁を敷いて坐処を作った。足を組み、身体を立て、東を向いて禪定に入った。するとすぐに五の考えが生じた。平安 (kṣema) ・幸福 (sukha) ・純潔 (śubha) ・利他 (hita) 、そしてその日に無上の完全な悟りに目覚めるであろうという五つの考えである。
- ⑰衆許（大正03 p.950上）；爾時菩薩拳相好身、登金剛座結跏趺坐、而発誓言。我不起此座直至漏尽。

[C] 後世の仏伝資料

- ①釈迦（大正50 p.031上）；坐彼樹下、我道不成、要終不起。（出因果経）
- ③氏譜（大正50 p.091下）；如過去仏結跏趺坐。不成正覺不起此座。
- ④統紀（大正49 p.145中）；即趣畢鉢羅樹、自発願言。我坐樹下若道不成要終不起。
- ⑥Bigandet. (vol. I p.086, 赤沼 p.112) ; その時、菩薩は東に向うて次の誓言をなし給うた。
「もしこの座に於て仏果をひらくことが出来ないならば、私の骨も、血管も、皮膚も永久にこの座に止まるであろう。血も肉も乾き切って仕舞うであろう」と。

【23-07】成道----降魔

悪魔が現われ、成道しようとする菩薩を妨げようとして、脅し、誘惑するが、菩薩がこれを降伏する。

[A] 原始聖典

- ①SN.04-024, 025 (vol. I p.122) ; 一時世尊はウルヴェーラーのネーランジャラー河の岸辺のアジャパーラニグロダ樹の下に住されていた (ekam samayaṃ Bhagavā Uruvelāyaṃ viharati najjā Nerañjarāya tīre Ajapāla-nigrodhe) 。その時悪魔パーピマントは7年の間世尊につきまわっていたが隙を得ることができなかった (Māro pāpimā sattavassāni Bhagavantam anubadd hohoti otārāpekkho otāram alabhamāno) 。
- ① ‘Suttanipāta’ Vs.446 (p.077) ; (尼連禪河にて) 7年間我(悪魔ナムチ Namuci)は世尊に付き纏わり従った。〔しかし〕念ある正覚者に〔乗すべき〕機会を得なかった (Satta vassāni bhagavantam anubandhim padā padam , otāram nādhigaccissam Sambuddhassa satimato) 。
- ④雑阿含604 (大正02 p.167中) ; 尊者将王至道樹下、語王曰。此樹菩薩摩訶薩以慈悲三昧力破魔兵衆、得阿耨多羅三藐三菩提。
- ⑥増一阿含16-08 (大正02 p.580中) ; 設吾無此二力(忍力・思惟力)者……終不於優留毘伽六年苦行。亦復不能降伏魔怨成無上正真之道。坐於道場以我有忍力・思惟力故、便能降伏魔衆成無上正真之道。
- ⑩根本有部律「泥薩祇波逸底迦004」(大正23 p.717上) ; 若我諸漏未断尽者、我終不解此跏趺坐。是時菩薩未解跏趺衆惑皆尽。爾時世尊降伏三十六億魔軍兵已、證一切智。
- ⑩根本有部律「苾芻尼波羅市迦001」(大正23 p.911上) ; 於金剛座自敷草座、結跏趺坐端身正念如睡龍王。以慈悲仗降彼三十六億天魔兵衆、證無上覺。
- ⑩根本有部律「苾芻尼泥薩祇波逸底迦004」(大正23 p.948中) ; 是時菩薩未解加趺、衆惑皆尽。爾時世尊降伏三十六億魔軍兵已證一切智。
- ⑩根本有部律「出家事」(大正23 p.1027上) ; 爾時菩薩未證悟、便即降伏三十六萬俱胝惡魔。其魔各有百千鬼眷屬。爾時菩薩以慈鎧仗、降伏魔已、便證無上正等菩提。
- ⑩根本有部律「破僧事」(大正24 p.123上) ; 魔王常法、有二種幢。一為喜幢、二為憂幢。……爾時世尊、拳輪萬網縵無量福生慰喻一切恐怖、手指於大地曰。此當證我……。
- ⑩根本有部律「雜事」(大正24 p.165上) ; 爾時世尊在菩提樹下、降伏三十六俱胝魔軍、證得無上正遍知覺。
- ⑩根本有部律「雜事」(大正24 p.299下) ; 是時菩薩以慈心器仗、降伏三十六億千魔衆已證無上智。
- ⑩根本有部律「雜事」(大正24 p.395中) ; 世尊降彼三十六億天魔軍衆成無上智。
- ⑫施護訳「給孤長者女得度因緣經」(大正02 p.846中) ; 捨輪王位出家修道、厭彼世間富貴等事、歷修衆行菩提樹下降魔成仏。

[B] 仏伝經典

- ①NK. (vol. I p.071, 南伝28 p.151) ; その時摩羅(マーラ Māra)天子は「悉達太子(シツダッタ Siddhattha)は俺の領分を出ようとしている。だが彼を出させてたまものか」と云って、……魔軍を率き伴れてやって来た。(風、雨、石、乱打、熱炭、砂、泥土、暗闇の雨による攻撃)……魔王の眷属は……四方八方へ逃げ散った。
- ②修行(大正03 p.470下) ; 菩薩心自念言、今当降魔官属。即放眉間毫相光明、感動魔宮。魔大惶怖。……魔子須摩提(漢言賢意)、前諫父曰。……三女自占、一名恩愛、二名常樂、三名大樂。

- ……魔見三女還皆成老母。……更召鬼神王、……鬼兵不能得近。
- ③中本（大正04 p.147下）；一時仏在摩竭提界善勝道場元吉樹下。徳力降魔。
- ④瑞応（大正03 p.477上）；於是第六化応声天。天上魔王、見菩薩清浄無欲、……心中煩毒、……当壞其道意。魔子薩陀、前諫父曰。……召三玉女、一名欲妃、二名悦彼、三名快観。……其三玉女、化成老母。……更召諸鬼神、……不能得近。
- ⑥普曜（大正03 p.517上）；時魔波旬聞是頌教、臥寐夢中見三十二変……以何方便断其徑路令不成就、以大兵衆而往伏之。
- ⑦方広（大正03 p.590中）；菩薩坐菩提座已作是思惟、我於今者当成正覺、魔王波旬居欲界中最尊最勝、応召来此而降伏之。……時魔波旬聞是偈已、復於夢中見三十二不祥之相。
- ⑧LV. (Lef. p.299, 溝口 p.268)；彼（菩薩）の心に次のような考えが浮かんだ。ここ、欲望の領域においては、悪魔マーラ（Māra）がその王国を支配する首領であり、領主であるに違いない。……私は悪魔パーピーヤス（Pāpiyas）に対して挑発を行う必要がある。……こうして……悪魔パーピーヤスはこれらの挑発する詩句によって刺激されて、三十二の光景からなる夢を見た。
- ⑨僧伽（大正04 p.124上）；爾時世尊云何降伏魔衆。……猶羅刹鬼露現牙爪、……作如是変怪。……以智慧刀降伏彼怨。
- ⑩仏讃（大正04 p.025上）；仙王族大仙 於菩提樹下 建立堅固誓 要成解脱道 …… 法怨魔王 独憂而不悦 五欲自在王 具諸戰鬪藝 憎嫉解脱者 故名為波旬 魔王有三女 …… 第一名欲染 次名能悦人 三名可愛樂 …… 衆魔既退散 菩薩心虚静
- ⑪BC. (13-01)；連綿たる王仙の家柄の出身であるこの大仙が、解脱せんとかく誓いをたててそこに座ったとき、世界は歓喜したが、一方……マーラ（Māra）はおそれ戦いた。……したがって彼が（解脱の道に）開眼する以前に……私は彼の誓いを粉碎するために出立しようと思っているのだ。
- ⑫行経（大正04 p.076上）；時菩薩始坐 …… 魔天見地震 疑問何故爾……魔王聞其言 情即惨然坐 三女来問訊 第一女名愛 第二名志悦 第三名乱樂 …… 魔王見女老 …… 即召重傍臣 令合召大軍 …… 不能揺動菩薩意
- ⑬過去（大正03 p.639下）；時第六天魔王宮殿、自然動揺。……魔子薩陀、……魔有三女、……一名染欲、二名能悦人、三名可愛樂。……時三天女、變成老姥。
- ⑭集経（大正03 p.769中）；爾時欲界魔王波旬、欲為菩薩生擾乱故、於彼六年苦行之内、恒常密近菩薩左右、伺求其便、微毫過失而不能得。
- ⑮集経（大正03 p.774下）；心如是念。此欲界内、是彼魔王波旬為主自在統領、我今応當語彼令知。…… 爾時欲界魔王波旬、……於睡眠中、心忽驚動、自然夢見、三十二種、不吉祥相。
- ⑯MV. (vol. II p.237, Jones II p.224)；菩薩がナイランジャンナー（Nairamjanā）河畔で苦行生活を送っていたとき、マーラ（Māra）が近づいて言った。「このような努力で何を獲ようとしているのか。家に帰れば世界の王になるでしょう」と。
- ⑰MV. (vol. II p.281, Jones II p.264)；マーラ（Māra）は四重の軍を将いて、菩提樹に向って進軍した。……マーラは杖をもって地面に「ガウタマ（Gautama）は自分の力の及ばぬ所へ行ってしまうだろう」と書いた。
- ⑱衆許（大正03 p.950上）；時魔宮中有二種旗、一名喜相。二名疑相。……時魔波旬……變身為人詐作浄飯王書。……三種不善、……三善。……魔王……旋歸天宮別作魔計、即化三女……變成老母。……三十六俱胝鬼魅兵將。

[C] 後世の仏伝資料

- ①釈迦（大正50 p.007下）；時魔波旬臥寐夢中見三十二変。（出普曜経）

- ① 釈迦（大正50 p.032中）；時第六天魔王宮殿自然動揺。（出因果經）
- ③ 氏譜（大正50 p.091下）；処胎經云。……波旬臥夢見三十二變。……從覺恐怖召會臣兵、并召千子。……又告四女、……變成老母。觀仏三昧云。三女莊飾……、……菩薩以智慧力、伸手按地応時地動、魔與兵衆顛倒而墮。
- ④ 統紀（大正49 p.145中）；時魔王宮殿自然動揺、……於是手執弓箭。……語菩薩言、……捨出家法。……魔王挽弓放箭、……變成蓮華。魔王復遣三女、……時三天女變成老姥、……將八十億衆。……波旬長子商主即頂禮菩薩求乞懺悔。
- ⑤ JM. (p.028, 畑中 p.105)；そして摩訶薩は太陽が沈む前の夕暮れ時に (suriye dharamāneyeva sāyaṇhasamaye) マーラをその軍勢と共に確破して……。
- ⑥ Bigandet. (vol. I p.086, 赤沼 p.115)；かくて菩薩がその高座に趺坐して居給う時、悪魔 (Manh Nat) は自ら思う様、悉達多太子は今や我が王国の境域を脱せようとして居る。どうしてこれを黙視することが出来よう。……「菩薩が、この憍慢なる敵に対して光輝ある勝利を得給うたのは日没の少し前であった。」

【23-08】成道——菩提樹下の成道

明星が現れたとき、菩薩が菩提樹下において正覚を成じて仏となる(1)。

[A] 原始聖典

- ① DN.014 ‘Mahāpadāna-s.’ (大本經 vol. II p.052)；友よ、世尊はアッサッタ樹の根方で正覚された (bhagavā mārisa assatthassa mūle abhisambuddho)。
- ① MN.026 ‘Ariyapariyesana-s.’ (vol. I p.167)；私は生法 (jātidhamma)、老法 (jarādhamma)、病法 (byādhidhamma)、死法 (maraṇadhamma) において患を知り、無上安穩涅槃を得た (anuttaraṃ yogakkhemaṃ nibbānaṃ ajjhagamaṃ)。
- ① SN.12-10 (vol. II p.010)；私 (釈尊) は 1 2 因縁を順逆に観察して智慧を生じた。
- ① SN.12-65 (vol. II p.104)；私 (釈尊) は 1 2 因縁を順逆に観察して智慧を生じた。
- ① ‘Udāna’ 01-001~003 (p.001)；世尊は 1 2 因縁を順逆に観察して智慧を生じた。
- ① ‘Udāna’ 03-010 (p.032)；世尊は菩提樹の下で、有 (bhava) によって苦しみがあるというウダーナを唱えられた。
- ① ‘Buddhavaṃsa’ 26-20 (p.098)；私はアッサッタ樹の根方で無上菩提に達した (ahaṃ assatthamūlamhi patto sambodhiṃ uttamaṃ)。
- ① Vinaya ‘Mahākhandaḥka’ (vol. I p.001)；その時仏はウルヴェーラー (Uruvelā) の尼連禪河 (Nerañjarā) の岸辺の菩提樹の根方 (bodhirukkhamūla) で初めて正覚されて住されていた。
- ② 長阿含001「大本經」(大正01 p.007下)；爾時菩薩逆順觀十二因縁、如実知、如実見已、即於座上成阿耨多羅三藐三菩提。
- ④ 雜阿含285 (大正02 p.079下)；爾時世尊告諸比丘。我憶宿命、未成正覚時。獨一静処、專精禪思、生如是念。世間難入、所謂若生若老若病若死、若遷若受生。然諸衆生生死上及所依、不如実知。我作是念、何法有故生有、何法縁故生有……。
- ④ 雜阿含287 (大正02 p.080中)；爾時世尊告諸比丘。我憶宿命、未成正覚時、獨一静処、專精禪思、作是念。何法有故老死有。何法縁故老死有……。
- ④ 雜阿含370 (大正02 p.101下)；一時仏住鬱毘羅尼連禪河側大菩提所、不久当成正覚。往詣菩提樹下敷草為座結跏趺坐正身正念。如前広説 (十二縁起を逆順に観察した)。
- ④ 雜阿含604 (大正02 p.167中)；此樹菩薩摩訶薩、以慈悲三昧力破魔兵衆、得阿耨多羅三藐三菩

提。

- ⑥増一阿含31-08 (大正02 p.671下) ; 吾即坐其上正身正意結加趺坐計念在前。爾時貪欲意解、除諸惡法、有覺・有觀遊志初禪。有覺、有觀除盡。遊志二・三禪、護念清淨憂喜除盡。遊志四禪。我爾時以清淨之心除諸結使得無所畏。……有漏盡成無漏心解脫智慧解脫、生死已盡、梵行已立、所作已辦、更不復受胎、如實知之即成無上正真之道。
- ⑥増一阿含38-04 (大正02 p.718上) ; 世尊告諸比丘。我本為菩薩時、未成仏道中有此念。此世間極為勤苦。有生有老有病有死。然此五盛陰不得盡本原。是時、我復作是念。由何因縁有生老病死、復由何因縁致此災患……。
- ⑥増一阿含48-04 (大正02 p.790下) ; 如我今日如來坐吉祥樹下而成仏道。
- ⑦四分律「受戒捷度」(大正22 p.781下) ; 爾時世尊、於彼處盡一切漏、除一切結使。即於菩提樹下、結加趺坐、七日不動、受解脫樂。
- ⑧五分律「受戒法」(大正22 p.102下) ; 如瑞応本起中説、於是起到鬱鞞羅聚落、始得仏道坐林樹下。
- ⑩僧祇律「雜誦跋渠」(大正22 p.412中) ; 自具足者。世尊在菩提樹下、最後心廓然大悟、自覺妙證善具足。如線經中広説。是名自具足。
- ⑪根本有部律「泥薩祇波逸底迦004」(大正23 p.717上) ; 若我諸漏未斷盡者、我終不解此跏趺坐。是時菩薩未解跏趺衆惑皆盡。爾時世尊降伏三十六億魔軍兵已、證一切智。
- ⑪根本有部律「苾芻尼波羅市迦001」(大正23 p.911上) ; 於金剛座自敷草座、結跏趺坐端身正念如睡龍王。以慈悲仗降彼三十六億天魔兵衆、證無上覺。
- ⑪根本有部律「苾芻尼泥薩祇波逸底迦004」(大正23 p.948中) ; 是時菩薩未解加趺、衆惑皆盡。爾時世尊降伏三十六億魔軍兵已、證一切智。
- ⑪根本有部律「破僧事」(大正24 p.124中) ; 菩提樹下於夜分中……證斯道已、於欲漏有漏無明漏、心得解脫、既得解脫、證諸漏盡智、我生已盡梵行已立、応作已作不受後有、即證菩提。
- ⑪根本有部律「雜事」(大正24 p.165上) ; 爾時世尊在菩提樹下、降伏三十六俱胝魔軍、證得無上正遍知覺。
- ⑪根本有部律「雜事」(大正24 p.299下) ; 是時菩薩以慈心器仗、降伏三十六億千魔衆已證無上智。
- ⑫失記「七仏父母姓字經」(大正01 p.159下) ; 今我作釈迦文尼仏時於阿沛多樹下。
- ⑫法顯記「大般涅槃經」(大正01 p.199下) ; 常在人天受樂果報無有窮盡。何等為四。一者如來為菩薩時、在迦比羅旃兜國藍毘尼園所生之處。二者於摩竭提國、我初坐於菩提樹下得成阿耨多羅三藐三菩提處。三者波羅捺國鹿野苑中仙人所住轉法輪處。四者鳩尸那國力士地熙連河側娑羅林中雙樹之間般涅槃處。
- *①DN.014 'Mahāpadāna-s.' (大本經 vol.II p.030) ; Vipassin菩薩は十二縁起を順逆に觀察して、心解脫した。
- *④雜阿含369 (大正02 p.101中) ; 昔者毘婆尸仏未成正覺時、住菩提所、不久成仏。詣菩提樹下、敷草為座。結跏趺坐、端坐正念、一坐七日、於十二縁起逆順觀察。所謂此有故彼有、此起故彼起、縁無明行乃至縁生有老死、及純大苦聚集、純大苦聚滅。
- *④雜阿含366 (大正02 p.101上) ; 毘婆尸仏未成正覺時、獨一静處、專精禪思、作如是念。一切世間皆入生死、自生自熟自滅自沒。而彼衆生於老死之上出世間道不如實知。即自觀察。何縁有此老死……。

[B] 仏伝經典

- ①NK. (vol. I p.075, 南伝28 p.159) ; 斯くて太陽がまだ〔西に〕傾かない間に、大士は魔軍を打ち亡ぼし……初夜に宿住智を〔獲〕、中夜に天眼を清め、後夜に縁起を觀ぜられた。……太陽がさし昇る頃、……菩薩は一切智を得られ……。

- ②修行（大正03 p.471中）；菩薩累劫清淨之行、至儒大慈、道定自然、忍力降魔、鬼兵退散。……是日夜半後、得三術闍（三術闍者漢言三神満具足）。……明星出時、廓然大悟。得無上正真道。
- ③中本（大正04 p.147下）；覺慧神靜、三達無碍。
- ④瑞応（大正03 p.478上）；菩薩累劫清淨之行、至儒大慈、道定自然、忍力降魔、鬼兵退散。……是日初夜得一術闍至三夜時得三術闍。……明星出時廓然大悟得無上正真之道。
- ⑥普曜（大正03 p.521下）；菩薩坐仏樹下、以降魔怨成正真覺、……示現四禪。……明星出時廓然大悟、得無上正真道、為最正覺。
- ⑦方広（大正03 p.595上）；爾時菩薩降伏魔怨、……建立法幢。……至初夜分得……天眼通、……於中夜分……宿命智。……於後夜分明星出時、……成等正覺、具足三明。
- ⑧LV. (Lef. p.343, 溝口 p.301)；かの菩薩は悪魔の反対（妨害）を乗り越え、敵を屈服させ、戦いの先頭に立って完全な勝利をおさめられた。……夜の第一の時刻（第一分）に人間の眼を遠く超越した完全に清浄な眼……真夜中の時刻（第二分）において過去世の住いを正確に思い起こす賢明さの見解の知……夜の最後の時刻（第三分）において夜明けの光が現れる時、……苦痛の集積の消滅を獲得するために、煩惱の破壊を行う知の見解の認識……三重の知（三明）を獲得された。
- ⑨僧伽（大正04 p.123上）；一切智成等正覺時、觀世無常苦空。彼已成等正覺無有衆悩。
- ⑩十二（大正04 p.146下）；仏以二十九出家、以三十五得道。從四月八日至七月十五日、坐樹下為一年。
- ⑪仏讚（大正04 p.026下）；菩薩降魔已 …… 入於深妙禪 …… 初夜入正受 憶念過去生 …… 即於中夜時 逮得淨天眼 …… 即彼第三夜 入於深正受 …… 大仙正覺成 如是正覺成 仏則興世間
- ⑫BC. (14-01)；そこで、強い意志と心の安らぎでもってマーラ（Māra）の軍勢に打ち勝った瞑想の名手は、最高の真実を勝ち取ろうとして瞑想にふけた。あらゆる瞑想法を完全に修得した後、日が暮れてからしばらくして、前世で何回も繰り返した生涯を次々と思いだした。……真夜中近く……最高の超視力を得た……その夜の三更真夜中に至って……この世間の本性を瞑想された。……夜も四更、暁の明けをそめるその刹那……不変の地位と一切知とを獲得された。
- ⑬行経（大正04 p.078中）；於是現歴觀諸禪 …… 憶念久遠初始事 …… 時至夜半天眼觀 …… 於其夜至第三時 審諦思惟意要妙 …… 一切智成最仏道 …… 逮仏第一最処已
- ⑭過去（大正03 p.641中）；爾時菩薩、以慈悲力、於二月七日夜、降伏魔已。……即便入定思惟審諦、……悉知過去所造善惡。……至初夜尽……既至中夜、即得天眼。……至第三夜、……觀十二因縁。……明相出時、……成一切種智。
- ⑮集経（大正03 p.771中）爾時菩薩六年既満、至春二月十六日時、内心自作如是思惟、我今不応將如是食。食已而證阿耨多羅三藐三菩提。……爾時菩薩、至於二月二十三日、於晨朝時、齊整着衣、欲向優婁頻蠡聚落而行乞食。……
- ⑯集経（大正03 p.792下）；爾時菩薩、既已降伏一切魔怨。……於彼初夜初更之中、得宿命智、正念證知。心成就行……於彼夜半、……彼天眼……後夜、欲得證知漏尽神通。……第四於夜後分、明星將欲初出現時、……既成阿耨多羅三藐三菩提。
- ⑰MV. (vol. II p.284, Jones II p.266)；菩薩は最後の夜分に於て、暁方夜明けの光の中で無上の完全な悟りを得た。
- ⑱衆許（大正03 p.950下）；即於三摩地運神通力、……以宿命通、……以天眼通……四諦行相、……如是思已。無漏智觀速得現前、見修二道頓捨不生、成無上覺。

[C] 後世の仏伝資料

- ① 釈迦（大正50 p.034下）；爾時菩薩以慈心力、於二月七日……。〔出因果經〕
- ② 歴代（大正49 p.023中）；十九年癸亥年三十。二月八日明星出時、朗然覺悟成無上道（般泥洹經下卷、仏語阿難、我成道來年亦自至四十有九。）……禪要云。如來成道四十九年、是為一味。長阿含（第五卷云、仏語須跋、我成仏已來已五十年。）
- ③ 氏譜（大正50 p.092上）；經云。爾時菩薩以慈善力、二月七日夜降魔放光、……明星出時霍然大悟得成正覺。
- ④ 統紀（大正49 p.146上）；二月七日惡魔退散之時、菩薩心淨湛然不動。……明星出時霍然大悟……得無上道為最正覺。
- ⑤ JM. (p.028, 畑中 p.105)；初夜分に宿住を隨念し、中夜分には天眼を清め、早朝時に智を緣相に下ろして出入息に基づく第四禪を生ぜしめ……夜明けの時、全ての仏陀の徳に飾られた一切知性智に通達した。
- ⑥ Bigandet. (vol. I p.091, 赤沼 p.121)；「その時、菩薩は最深奥なる默想に入り給うた。」……こういう考えが菩薩の心中に集まり起ったのはアニュジャーナ紀元（Eatzana）百三年、カチヤン（Katson 四月）満月の日夜明の少し前であった。この時、正しき全智一時に菩薩の心中に起って、菩薩は遂に仏陀になり給うた。

(1) 成道年齢については項目を立てなかった。本研究の第1号中の「釈尊の出家・成道・入滅年齢と誕生・出家・成道・入滅の月・日」のpp.109~115を参照されたい。

【24-01】 解脱を楽しむ——悪魔が涅槃に入れと誘惑する

悪魔が悟りを開いた釈尊に、成道したのだから涅槃に入れ、と誘惑する。

[A] 原始聖典

- ① DN.016 ‘Mahāparinibbāna-s.’ (vol. II p.112)；ある時、初めて正覺を得て、ウルヴェーラーのネーランジャラー河の岸辺のアジャパーラ・ニグローダ樹の下に住していたときのこと、悪魔パーピマントが私に近づいてきて、「尊者よ、世尊は今般涅槃しなさい、善逝は般涅槃しなさい、今世尊が般涅槃されるべきときです（parinibbātu dāni bhante Bhagavā, parinibbātu Sugato, parinibbāna-kālo dāni bhante Bhagavato）」といった。
- ① ‘Suttanipāta’ Vs.425~ (p.074)；尼連禪河のほとりでヨーガを修している正覺を得た私に（悪魔）ナムチ（Namuci）は近づいてきて、世間の福を受けよと誘惑した。
- ② 長阿含002「遊行經」（大正01 p.015下）；魔波旬復白仏言。仏昔於鬱鞞羅尼連禪水辺、阿遊波尼俱律樹下初成正覺。我時至世尊所、勸請如來可般涅槃、今正是時、宜速滅度。爾時如來即報我言。止、止、波旬……。
- ④ 雜阿含1092（大正02 p.286中）；於菩提樹下、成仏未久。時魔波旬作是念。……瞿曇若自知 安隱涅槃道 獨善無為樂 何為強化人。
- ⑩ 根本有部律「破僧事」（大正24 p.125下）；爾時世尊。持此石鉢於尼連禪河岸以水泥壇如法而食。食已還菩提樹下、收鉢洗足。以麩酪漿蜜性冷故爾時世尊患於風氣。魔王見仏患冷風氣、來詣仏所頂禮仏足白仏言。世尊、涅槃時至、何用久住於世、可早入涅槃。世尊知為魔王所惱、告言。汝罪魔王我未入涅槃。何以故。我未有声聞弟子聰明智慧。若有他問如法而答、善破異論廣建正法、具足四部衆、苾芻苾芻尼鄔婆索迦鄔婆斯迦。上天下界及諸十方廣知我法修諸梵行、悉皆了知。若未如此、我未入涅槃。魔王聞仏此語心生懊惱隱身而去。

*① SN.04-001~003 (vol. I p.103)；一時世尊は尼連禪河のアジャパーラニグローダ樹の下に住さ

れていた。初めて成道された時であった (pathamābhisambuddho)。時に悪魔パーピマントは (atha kho Māro pāpimā) 苦行でこそ人は清められると言った。世尊はそれを破された。

- *① ‘Udāna’ 03-10 (p.032) ; 世尊がウルヴェーラーのネーランジャラー河の岸辺の菩提樹の下で初めて正等覚されたとき、次のようなウダーナを唱えられた。……涅槃に至った比丘には再び生まれることはない、悪魔は打ち勝たれ、戦いに敗れた。
- *④雑阿含1093 (大正02 p.287下) ; 一時仏住鬱鞞羅処尼連禪河側、大菩提樹下、初成仏道。天魔波旬……説偈言。長夜生死中 作淨不淨色 汝何為作此 不度苦彼岸 ……
- *④雑阿含1094 (大正02 p.287下) ; 一時仏住鬱鞞羅処尼連禪河側、大菩提樹下、初成正覚。……魔波旬……説偈言。大修苦行処 能令得清淨 而今反棄捨 於此何所求 欲於此求淨 淨亦無由得
- *⑤別訳雑阿含031 (大正02 p.383上) ; 一時仏在優樓比螺聚落尼連禪河菩提樹下、成仏未久。爾時魔王而作是念。…… 汝已獲正道 安穩向涅槃 既以得妙法 宜常戢在懷 誠應獨了知 何以教衆人。

[B] 仏伝経典

- ⑦方広 (大正03 p.601上) ; 至第四七日……爾時魔王至世尊所、作如是言。世尊、無量劫來精勤苦行、方得成仏入般涅槃、今正是時。……仏言、波旬我……欲利益諸衆生故……未説妙法。
- ⑧LV. (Lef. p.377, 溝口 p.332) ; 第四週において (caturthe saptāhe) ……悪魔パーピーヤス (Pāpiyas) は如来がおられる場所に近づいて、如来に向かってこの言葉を述べた。世尊、どうかパリニルヴァーナにお入り下さい！……今こそ世尊にとってパリニルヴァーナに赴かれる時です。……如来は……答えられた。否、パーピーヤスよ、私はパリニルヴァーナには入らないであろう。私の修行者 (弟子) 達がよく調御され、教化され……ない間は。
- ⑩集経 (大正03 p.807下) ; 爾時世尊、……向波羅奈国。……爾時魔王波旬、見仏欲捨於此菩提樹起、……而白仏言。善哉世尊、唯願世尊、莫離此処。
- ⑩MV. (vol. III p.281 Jones III p.269) ; 第三の七日を (tṛtīyaṃ saptāhaṃ) 世尊は喜びと安楽の中で経行して過ぎられた。その時マールは遠からざるところに座り、苦しみ、気落ち、後悔していた。マール (Māra) の娘タントゥリー (Tantri) とアラティ (Arati) が誘惑せんと近づく (後文ではラティ [Rati] も加えられる) が退けられる。
- ⑩衆許 (大正03 p.952上) ; 爾時世尊受得商主布薩婆梨迦所施之食、……覺體中而發風病。……是時天魔、……至仏所、而作是言。善逝、汝今不安涅槃時至。……仏謂魔言。我涅槃未至、……待声聞弟子、……智慧明達。

[C] 後世の仏伝資料

- ③氏譜 (大正50 p.093上) ; 魔王白仏宜可涅槃。仏言、我四部未具外道未降。(三迦葉教化中に)
- ④統紀 (大正49 p.154中) ; 時魔王求請入般涅槃、至於三請。世尊答曰。所応度者、皆未究竟。(三迦葉教化中に)

【24-02】解脱を楽しむ----アジャパーラ樹下にて

釈尊がアジャパーラニグロダ (Ajapāla nigrodha) 樹下で7日間を過ごし、解脱を楽しむ(1)。

[A] 原始聖典

- ①Vinaya ‘Mahākhandhaka’ (vol. I p.002) ; 菩提樹の下で7日間の禪定を過ぎした後、アジャパーラニグロダ樹 (Ajapāla nigrodha) の下に赴かれ、また7日の間解脱の楽しみを受けられた (vimuttisukhapaṭisaṃvedin) 。

- ③中阿含032「未曾有經」（大正01 p.471下）；我聞世尊一時在鬱鞞羅尼連然河邊、阿闍瑟羅尼拘類樹下初得仏道。爾時大雨至于七日。高下悉滿潢澇橫流。世尊於中露地經行、其處塵起。若世尊潢澇橫流。世尊於中露地經行、其處塵起者、我受持是世尊未曾有法。
- ⑦四分律「受戒毘度」（大正22 p.786中）；爾時世尊、遊文驎龍王樹下住已、便往詣阿踰波羅尼拘律樹下。到已敷坐具結加趺坐、作是念言。我今已獲此法、甚深難解難知永寂休息微妙最上智者、能知非愚者所習。衆生異見異忍異欲異命。依於異見樂於樸窟衆生、以是樂於樸窟故、於緣起法甚深難解、復有甚深難解處、滅諸欲愛盡涅槃、是處亦難見故、我今欲說法、余人不知。則於我唐勞疲苦耳。
- ⑧五分律「受戒法」（大正22 p.103下）；仏食已復還菩提樹下三昧七日。起向阿踰波羅尼拘類樹。中路見一女人鑽酪作酥、便從乞食。彼女取鉢盛滿酪奉仏。受二自歸亦如上説。
- *①DN.021 ‘Sakka-pañha-s.’ (vol. II p.273)；ガンダルヴァ (Gandhabba) のパンチャシカ (Pañcasikha) が世尊が成道直後アジャパーラ・ニグローダ樹の根方に住されていたときにあったことを物語っている。ただし本項のエピソードとは直接関係がない。
- *①AN.04-022 (vol. II p.022)；ある時、初めて正覚を得て、ウルヴェーラーのネーランジャラー河の岸辺のアジャパーラ・ニグローダ樹の下に住していたときのこと、年取った婆羅門がやって来て、本当の智者 (paṇḍita) ・上座 (thera) とは何かという問答をした。
- *① ‘Udāna’ 01-004 (p.003)；アジャパーラニグローダ樹の下で7日間禪定し終わったとき、驕慢な生まれつきのバラモン (huhūñkajātika brāhmaṇa) にバラモンとは何かを説かれた。
- *②長阿含014「釈提桓因問經」（大正01 p.063上）；同上
- *③中阿含134「釈問經」（大正01 p.633中）；同上
- *③中阿含093「水浄梵志經」（大正01 p.575上）；「一時仏遊鬱鞞羅尼連然河岸在阿耶瑟羅尼拘類樹下、初得道時」に、水浄梵志と問答したことが記されている。

[B] 仏伝經典

- ①NK. (vol. I p.078, 南伝28 p.165)；斯うして菩提樹の附近だけで、四七日を過ぎて (cattāri sattāhāni)、第五七日には (pañcame sattāhe) 菩提樹の下からアジャパーラ (Ajapāla) 榕樹のある所に行き、此處でもまた法を探り解脱の樂を享けつつ坐し給うた。(魔王の三人の、娘がきて誘惑するも失敗)
- ⑦方広 (大正03 p.601中)；爾時世尊於第六七日、往尼俱陀樹下近尼連河。是處多諸外道、彼外道衆皆來親觀、慰問世尊。
- ⑧LV. (Lef. p.380, 溝口 p.334)；第六週において (ṣaṣṭhe saptāhe)、如来はムチリンダ (Mucilinda) の住いから出て、「雌ヤギを飼う者 (アジャパーラ Ajapāla)」という名前のイチジク (ニヤグローダ Nyagrodha) の木の下へ赴かれた。……ナイランジャーナー (Nairāñjanā) 河の岸の上で、チャラカ (Caraka) ……及びその他の諸宗教の修行者達が如来を見て、如来に言った。
- ⑮集經 (大正03 p.800下)；爾時彼處有牧羊子。……在彼苦行六年之中、以向世尊、浄心供養。……折尼拘陀枝、為作蔭涼。……其羊子、……随此多少信心福業善根因縁、命終已後、即得生於三十三天、便成大徳威力天子。(成仏道を開いて仏の所へ詣り) 受三自歸及五戒已。……最初天中、成優婆塞。
- ⑯MV. (vol. III p.301, Jones III p.288)；世尊がナイランジャーナー (Nairāñjanā) 河畔で苦行生活をされていた時、一人の羊牧子 (Ajapālaka) がこれを見て信心を起し、一本のニヤグローダ (Nyagrodha) 樹を世尊の為に植えた。その功德により、滅後三十三天に生まれニヤグローダという名の天子となる。どのようなカルマの果によって昇天したかを考えた時、世尊の為に植えたニ

ヤグローダ樹を見て、ムチリンダ (Mucilinda) 竜王の住所に世尊を訪ね、慈悲を以てこの樹を利用いただきたいと申し上げる。世尊が黙然として承諾されたので、彼は喜んで拝礼し立ち去る。

[C] 後世の仏伝資料

- ⑤JM. (p.029, 畑中 p.118) ;そしてそのジェッタ (Jeṭṭha) 月の白分の14日目以降7日間は (Jeṭṭhamāsassa sukkapakkhe … tassa ca pakkhassa cuddasamito paṭṭhāya) 、アジャパーラ・ニグローダ (Ajapālanigrodha) 樹のもとで……過ごした。
- ⑥Bigandet. (vol. I p.102, 赤沼 p.134) ;かくして七日の間を、菩提樹に近きその場所に過し給うて、菩薩は阿闍波羅の樹即ち牧羊者の樹と呼ばれる尼拘律陀樹の下に移り給うた。この樹は、日中の間牧羊者とその山羊の群とが、涼しき影に憩うたから牧羊者の樹と呼ばれたのであるが、…仏陀は其の処に、跏趺して……七日の間を過し給うた。

(1) この間の出来事と順序には様々な伝承がある。詳細は付表2を参照されたい。

[24-03] 解脱を楽しむ----ムチャリンダ樹下にて

釈尊がムチャリンダ樹下で7日間を過ごす。この間、雨が降ったので、ムチャリンダ龍王 (Mucalinda nāgarāja) が釈尊を守護する⁽¹⁾。

[A] 原始聖典

- ① ‘Udāna’ 02-001 (p.010) ;ムチャリンダ樹の下で (Mucalindamūle) 7日間坐禅されたとき、雨が降ったので、ムチャリンダ龍王 (Mucalinda nāgarāja) が鎌首をもたげて保護した。
- ①Vinaya ‘Mahākhandhaka’ (vol. I p.003) ;アジャパーラニグローダ樹の下で7日間を過ごされた後、ムチャリンダ樹の下で7日間を過ごされた。そのとき雨が降り寒かったので、ムチャリンダ龍王 (Mucalinda nāgarājā) が世尊の身体を七匝して保護した。
- ⑦四分律「受戒健度」(大正22 p.786中) ;時世尊食彼食已、即詣文隣樹文隣水隣龍王宮。到彼已結跏趺坐七日思惟不動。遊解脱三昧而自娛樂。爾時七日天大雨極寒。文隣龍王自出其宮、以身遶仏頭蔭仏上……。
- ⑧五分律「受戒法」(大正22 p.103中) ;爾時世尊説此偈已。更為賈人説種種妙法、示教利喜已。復至一樹下食麩蜜。食麩蜜已。復結跏趺坐入定七日受解脱樂。過七日已、到文隣龍所坐一樹下。龍從水出以非人食奉上世尊。仏受食已、復入定七日受解脱樂。時雨七日其雲甚黑、使人毛豎。龍作是念。今雨可畏、我寧可化作大身遶仏七匝、頭覆仏上勿使風雨蚊虻惱亂世尊……。
- ⑩根本有部律「破僧事」(大正24 p.125下) ;爾時世尊、便受服之所患尋愈。爾時世尊所患既差、從菩提樹下起、往牟枝隣陀龍王池邊、坐一樹下念三摩地。時此池中合有七日雨下、牟枝隣陀龍王、知七日雨下不絕。從池而出、以身遶仏七匝、引頭覆仏頭上。
- *①SN.04-02 (vol. I p.104) 、04-03 (vol. I p.104) には、釈尊が正覺を成じられて、アジャパーラニグローダ樹の下に住されていたとき、雨が降った (devo ekaṃ ekaṃ phusāyati) とされている。

[B] 仏伝経典

- ①NK. (vol. I p.080, 南伝28 p.169) ;仏は其処に在して七日を (sattāhaṃ) 過し、次に文隣陀 (ムチャリンダ Mucalinda) に赴き給うた。其処でまた七日間 (sattāhaṃ) (第六) を過し、大雨のために起った寒気を防ぐために、文隣陀龍王 (Mucalinda-nāgarāja) が七卷蟻局で以て

〔仏を〕巻き上げ奉ったので、〔仏は〕少しの害をも受けず……。

- ④瑞応（大正03 p.479中）；起到文隣瞽龍無提水辺、坐定七日。……龍目得開、……前繞仏七匝。……龍有七頭、羅覆仏上、欲以障蔽蚊虻寒暑、時雨七日。……即受三自歸、諸畜生中、是龍為先見仏。
- ⑤異出（大正03 p.620上）；得仏道、便到龍水所。龍名文隣、文隣者所止水辺有樹。……文隣龍、便前趣仏、繞仏七匝。龍有七頭、便以覆仏上。龍出水侍仏、便風雨七日。……畜生中、文隣為於前自歸仏。
- ⑦方広（大正03 p.601中）；於第五七日住目真隣陀龍王所居之處。是時寒風霖雨七日不霽、龍王……以身衛仏纏遶七匝、以頭為蓋蔽覆仏上。四方復有無量龍王皆來護仏。
- ⑧LV. (Lef. p.379, 溝口 p.334)；第五週において (pañcame saptāhe)、……如来は龍の王であるムチリンダ (Mucilinda) の家に住まわれた。この時、非常な悪天候のこの週に、龍の王ムチリンダはその住いから出て、如来の体を七回ぐるぐる巻いて包み、頭を如来の上にさしかけて如来を守り、……同様に、東……西……南……北の領域からも別の龍王達がやって来て……
- ⑭過去（大正03 p.644上）；爾時世尊即復前行、次到阿闍婆羅水側。……当於爾時、七日風雨。時彼水中、有大龍王、名目真隣陀。見仏入定、即以其身圍繞七匝滿七日已。
- ⑮集經（大正03 p.800上）；爾時復更有一龍王、名目真隣陀。……於七日内、雨不暫停、遂成寒凍。爾時目真隣陀龍王、從宮殿出、以其大身、七重圍遶、擁蔽仏身。復以七頭、垂世尊上、作於大蓋。
- ⑯MV. (vol. III p.300 Jones III p.287)；世尊は第四週を (caturtham saptāham) 龍王カーラ (Kāla) の住処で過される。第五週を (pañcamam saptāham) ムチリンダ (Mucilinda) 龍王の住処で過される。その週季節外れの豪雨が降るが、ムチリンダ龍王は世尊の周りを七重に囲み覆う。ヴィニパータ (Vinipāta) 龍王も又、七日間 (saptāham) 巨大なコイルを提供し、同様の功德を得る。
- ⑰衆許（大正03 p.952中）；爾時世尊又復離菩提樹、往彼母啣隣那龍王宮。……是時彼処七日七夜降霖大雨、……龍王、……遂以自身纏繞七匝叩首上覆、如傘蓋相、經七昼夜不動不揺。

[C] 後世の仏伝資料

- ①釈迦（大正50 p.038下）；時彼水中有大龍王、名曰真隣陀見仏入定。（出因果經）
- ③氏譜（大正50 p.092中）；本起云。行至文隣瞽龍水辺、坐定七日風雨大至。……龍目得開……。
- ④統紀（大正49 p.152下）；二月三十日、世尊到文隣瞽龍無提水辺、坐定七日。……龍目得開……。
- ⑤JM. (p.029, 畑中 p.118)；Jetṭha月の黒分の6日目以後7日間はMucalinda樹のもとで〔過ごした〕 (Jetṭhamāsassa kālapakkhe chaṭṭhdevasato paṭṭhāya Mucalinde sattāham)。(龍王の記述なし)
- ⑥Bigandet. (vol. I p.106, 赤沼 p.140)；その場所に七日間を過してナヨン (Nayon) 月の満月の後第六日三昧より出で……その場所に目真隣陀 (Hidza-Ieeda) という貯水池があった。……その七日の間、非常な大雨があった。その池の主である龍王は仏陀の御身の上に注ぎかかるこの大雨を防ぎ奉らんがために、……世尊の御身を七巻きに巻いて、自分の大きな頭を以て、仏陀の頭を蔽い奉ったのである。

(1) この間の出来事と順序には様々な伝承がある。詳細は付表2を参照されたい。

〔24-04〕 解脱を楽しむ---タプッサとバハリカの供養と帰依

タプッサ (Tapussa、あるいはタパッサ [Tapassu]) ・バハリカ (Bhallika) (1)の2商人が通りがかりに釈尊と会い、食事を供養する。このとき四大天王が石鉢を布施する(2)。

[A] 原始聖典

- ① Vinaya 'Mahākhandaḥka' (vol. I p.003) ; ムチャリンダ樹の下で7日間を過ごされた後、ラージャーヤタナ樹 (Rājāyatana) の下に赴かれ、七日の間解脱の楽しみを楽しまれた。この時、タプッサとバハリカ (Tapussabhallaika) の二人の商人がウッカラ村 (Ukkala) からやって来て、二帰依を唱えた初めての優婆塞となった (teva loke paṭhamaṃ upāsakā ahesuṃ dvevācikā) 。
- ② AN.01-14-01 (vol. I p.025) ; 声聞優婆塞で最初に帰依した者の最上は商人タパッサとバハリカである (etaḍ aggaṃ mama sāvakaṇaṃ upāsakānaṃ paṭhamaṃ saraṇaṃ gacchantānaṃ yadidaṃ Tapassu-Bhallikā vāṇijā) 。
- ③ 雑阿含604 (大正02 p.167中) ; 此処四天王各持一鉢奉上於仏、合為一鉢。此処於賈客兄弟所受諸飯食。
- ④ 増一阿含06-01 (大正02 p.559下) ; 我弟子中初聞法藥成賢聖證三果商客是(3)。
- ⑤ 四分律「受戒捷度」 (大正22 p.781下) ; 時有二賈客兄弟二人。一名瓜二名優波離。將五百乘車載財宝、去菩提樹不遠而過。時樹神篤信於仏、曾與此二賈客旧知識。欲令彼得度、即往至賈人所語言……。是為優婆塞中最初受二帰依、是賈客兄弟二人為首。
- ⑥ 五分律「受戒法」 (大正22 p.103上) ; 爾時世尊身有風患。摩修羅山神即取訶梨勒果奉仏。願仏食之以除風患。仏受為食風患即除。結跏趺坐七日受解脱樂。過七日已從三昧起遊行人間。時有五百賈客、乘五百乘車。中有二大人、一名離謂、二名波利……。
- ⑦ 根本有部律「破僧事」 (大正24 p.125上) ; 爾時有二商主。一名黃菘、二名村落。各有百兩車及多人衆、共為與販路由仏所。
- * ① 'Buddhavaṃsa' (p.023) ; Tapassu-bhallikaはDipaṅkara仏の最高の給仕者 (upaṭṭhāka) とされている。

[B] 仏伝經典

- ① NK. (vol. I p.080, 南伝28 p.170) ; その時帝梨富沙 (タプッサ) と跋梨迦 (バハリカ) という二人の商人が五百輛の車を曳いて、ウッカラー (Ukkalā) 地方から中部地方へ行く途中…… (天人が食を献ずるよう勧め) 麩と蜜丸とを…… (四天王が各一鉢を献じ、一鉢となる) ……兄弟なる二人の商人等は、仏と法とに帰依し、二帰依を唱える信士となった。
- ② 修行 (大正03 p.472中) ; 是時仏在摩竭提界善勝道場貝多樹下、……度二賈客、提謂波利。授三自帰、及與五戒、為清信士。
- ③ 中本 (大正04 p.147下) ; 度二賈客、提謂波利。授三自帰、然許五戒、為清信士。
- ④ 瑞応 (大正03 p.479上) ; 樹神念仏。新得道快坐七日、未有献食者、我当求人令飯仏。時適有五百賈人、從山一面過。……中有兩大人、一名提謂、二名波利。……即和麩蜜。(四天王各取一鉢。……合成一鉢。) ……即皆受教、各三自帰。
- ⑤ 普曜 (大正03 p.526中) ; 爾時提謂波利之等與賈人俱五百為侶。(天子識乾が献食勧める) 即和麩蜜 (四天王が各一鉢献じ、合して一鉢となる) ……即以其鉢受賈麩蜜呪願賈人言。
- ⑥ 方広 (大正03 p.601下) ; 時北天竺国兄弟二人為衆商之主、一名帝履富婆、一名婆履。……以五百乘車載其珍宝還帰本国。(護林の神が献食を勧める) ……辦諸美味酥蜜甘蔗乳糜之属……諸商人……我從今者帰依如来。
- ⑦ LV. (Lef. p.381, 溝口 p.335) ; 第七週の間 (saptame saptāhe)、如来はターラーヤナ

(Tārāyaṇa) 樹のもとに留まっておられた。ちょうどこの時、北の国の二人の兄弟、トラプシャ (Tapuṣa) とバハリカ (Bhallika) という名前の有能で学識のある商人が、……五百台の車からなる大きな隊商を率いて、南の国から北の国に向かって進んでいた。……彼らは蜂蜜と菓子と砂糖黍とを手にとって、……(ブツダと法とに帰依した。)

- ① 仏讃 (大正04 p.028下) ; 時有商人行 善友天神告 大仙牟尼尊 在彼山林中 世間良福田 汝 応往供養 聞命大歡喜 奉施於初飯
- ② BC. (14-105) ; ……そのとき旅行く隊商の二人の資産家はその親しい神に勧められて、高貴な心を持つ大仙 (ブツダ) に喜んで頂礼し、初めて施食をさしあげたのである。
- ③ 行経 (大正04 p.087下) ; 於是便受 二賈客施 始受五戒 為清信士
- ④ 過去 (大正03 p.643中) ; 爾時五百商人。二人為主。一名跋陀羅斯那。二名跋陀羅梨。(天神 供養を勧める) ……即以蜜而奉上仏。……(時四天王、……各持一甕、……按令成一。) ……即授 商人三歸、一……三歸依将来僧。
- ⑤ 集経 (大正03 p.801上) ; 如是世尊、経七七日。……爾時彼処、從北天竺、有二商主、一名帝(当 梨反)梨富婆(隋言胡瓜)、二名跋梨迦(隋言金挺)。……爾時世尊、於新淨潔天施鉢内、……二商主 辺、受於麩酪蜜和之搏。……彼二商主、於人世間、最初而得三歸五戒優婆塞名。
- ⑥ MV. (vol.III p.302 JonesIII p.290) ; 世尊は第六週を羊牧子のニヤグローダ樹下で過し、第七 週を (saptamaṃ saptāhaṃ) クシーリカー樹 (Kṣīrikā) の林の中で断食しながら過す。そこへ 北方の町ウッカラ (Ukkala) の二商人トラプサ (Tapuṣa) とバハリカ (Bhallika) が五百の積 荷をもって南方からの帰途通りかかる。天子の勧めにより、二商人はバターを混ぜた蜜を差し上 げる。世尊は三歸依を与える。
- ⑦ 衆許 (大正03 p.951中) ; 爾時世尊於七昼夜、跏趺而坐……当爾之際亦無有人持食供養、纔説偈 已。忽有商主、名布薩婆梨迦、將五百量車載諸宝貨、欲往他国經過近地。(天人献食を勧める) …… 辨造種種飲食美妙香潔品味、……以奉仏。(四天王の献鉢) ……三歸、……歸依未来僧伽。

[C] 後世の仏伝資料

- ① 釈迦 (大正50 p.038上) ; 爾時五百商人、二人為主。(出因果経)
- ③ 氏譜 (大正50 p.092中) ; 経本起云。樹神念仏得道七日未有献者。
- ④ 統紀 (大正49 p.152下) ; 三月七日、樹神知仏七日坐定……未有奉食。……三歸依将来僧。
- ⑤ JM. (p.029, 畑中 p.118) ; アーサール八月の白分の8日目に (Āsāḥamāsassa sukkapakkhe aṭ- ṭhamiyaṃ) ……タプッサ (Tapussa) とバハリカ (Bhallika) の蜂蜜と麦菓子を食べ……。
- ⑥ Bigandet. (vol.I p.108, 赤沼 p.142) ; 仏陀が羅闍耶多那樹の下に趺坐して給うた時であつ た。帝梨富婆 (Tapoosa)、跋梨迦 (Palekat) という二人の商人が、五百輛の車を引いて、優留 毘羅聚落の仏陀の寄り給う所へ来た。……(二商人による甘いパンと麩蜜の供養……四天人によ る四個の鉢の供養……二商主、優婆塞となる。)

- (1) PTSではタパッサ (Tapassu)、バハルカ (Bhalluka) でセイロン、タイ版ではタプッサ、バハリカとする。
- (2) この間の出来事と順序には様々な伝承がある。詳細は付表2を参照されたい。
- (3) 明示されていないが、2人の商人を指すものと理解した。

【24-05】解脱を楽しむ---ディーパンカラ仏の因縁

昔、ディーパンカラ (Dīpaṃkara) 仏から記別を受けたことを想起する。2商人の帰依と関連させるものとさせないものがある(1)。

[A] 原始聖典

- ⑦四分律「受戒犍度」(大正22 p.782上)；時二賈人白仏言。我今從此欲還本生処、若至彼間当云何作福、何所禮敬供養。時世尊知彼至意、即與髮爪語言。汝等持此往彼作福禮敬供養。時賈人雖得髮爪、不能至心供養言、此髮爪世人所賤除棄之法、云何世尊持與我等供養。時世尊知賈人心中所念、即語賈人言……。
- ⑦四分律「受戒犍度」(大正22 p.782上)；仏告賈人言。過去久遠世時、有王名曰勝怨、統領閻浮提。爾時……即号曰定光菩薩……。

[B] 仏伝經典

- ①NK. (vol. I p.081, 南伝28 p.171)；二人(二商人)が、「尊師、〔何か〕私どもの捧持すべきものを頂きとう存じます」といったので、仏は右手でお自分の頭を撫でて、髪の記事物を与え給うた。二人は自分たちの都に〔還ってから〕この記事物を中に納めてその上に塔を立てた。
- ②修行(大正03 p.472中)；度二賈客、提謂波利、授三自歸、及與五戒、為清信士。念昔錠光別我為仏。汝後百劫、当得作仏、名釈迦文如来。……吾從是来、建立弘誓、奉行六度四等四恩三十七品、……大願果成。
- ③中本(大正04 p.147下)；度二賈客、提謂波利、授三自歸、然許五戒、為清信士。已惟昔先仏、名曰定光、拜吾仏名。汝於来世九十一劫、当得作仏、字釈迦文、号如来……度人如我今也。吾從是来、修治本心、六度無極……功報無遺、大願果成。
- ④瑞応(大正03 p.478下)；昔定光仏時、別我為仏、名釈迦文、令果得之。從無数劫、勤苦所求、適今得耳。(成道直後)⁽²⁾
- ⑤異出(大正03 p.620上)；仏便正坐自念言。昔往無数劫時、有題和竭羅仏言、我当為釈迦文仏。我今日已得仏矣、我從無数劫以来求仏、適今得仏耳。……為入六波羅蜜、不忘我功德也。今皆得之、仏適念是。(文隣竜王の箇所)⁽³⁾
- ⑤集経(大正03 p.803上)；爾時世尊、即與諸商仏身髮爪……而告之言。……若見此物、與我無異、……当還起塔供養尊重。……爾時世尊、知彼一切商人心已、告彼等言。汝等商主、莫作是念、我憶往昔、……有一世尊、出現於世、名曰然灯如来、……時彼世尊、即授我記。
- ⑥MV. (vol. III p.310, Jones III p.297)；その時、二商人は世尊に申し上げた。「我々は多くの国々にまたがる広範囲の商人であります。もし許されるならば、我々の崇拜する聖遺物をいただきたい。」世尊は自ら頭髪を切り取り、それを与えて「髪のをの塔を立てよ」と言われた。又、次に爪を切りそれを与えて「自分の爪の塔を立てよ。石が出現するからそれを組み立てよ」と言われた。

[C] 後世の仏伝資料

- ①釈迦(大正50 p.066中)；釈迦髮爪塔縁記。(出十誦律)

(1) 2商人の帰依と関係ないものに、[B]の②③④⑤。2商人の髮爪塔の献上と関連させるものに、[A]の⑦、[B]の⑤。2商人の髮爪供養のみを記し、ディーパンカラ仏からの記別にふれないものに、[B]の①⑥。

(2) これは2商人の帰依とは関係なく、成道直後に定光仏の授記を想起する。

(3) 同上(2)。

【24-06】解脱を楽しむ——天神が呵梨勒果を献じる

天神(帝釈天、あるいは樹神)が、腹をこわした釈尊に呵梨勒果を献上する(1)。

[A] 原始聖典

- ⑦四分律「受戒捷度」(大正22 p.786上)；去彼不遠有呵梨勒樹。彼樹神篤信於仏、即取呵梨勒果來奉世尊……。諸神受歸依者呵梨勒樹神最初。
- ⑧五分律「受戒法」(大正22 p.103上)；爾時世尊身有風患。摩修羅山神、即取訶梨勒果奉仏。願仏食之以除風患。仏受為食風患即除。
- ⑩根本有部律「破僧事」(大正24 p.125下)；釈提桓因見仏世尊患於風氣即往瞻部樹下。遠有訶梨勒林、於其林中取色香美味具足者訶梨勒果。速詣仏所頂禮仏足在一面立白仏言。我見世尊身患風氣故取訶梨勒果、今以奉施。若食此果風氣即除、唯願世尊受我此藥。

[B] 仏伝経典

- ①NK. (vol. I p.080, 南伝28 p.170)；それから〔仏は〕ラージャーヤタナ (Rājāyatana) 樹の所に赴いて、此処でも解脱の樂を享けながら、〔七日の間〕坐し続け給うた。これまで七七日 (sattasattāni) になる。この七七日の間に〔仏は〕洗面も大小便も食事もせず、……最後の四十九日目に (ekūnapaññāsatiṃ divase) ……「面を洗おう」というお考えが浮かんで来た。帝釈天王は阿伽陀、訶梨勒 (agadaharīṭaka 薬果) をもって来て〔仏に〕献じた。仏は……それによって便を通じ給うた。
- ④瑞応(大正03 p.479中)；時變蜜冷、仏腹内風起。帝釈即知、応時到閻浮提界上、取薬果名呵梨勒、来白仏言。是果香美可服、最除内風。仏便食之、風即除去。
- ⑤集経(大正03 p.803中)；如是世尊、四十九日、不得飲食。既始於彼商人等边、得於此食。世尊食後、往昔業力、忽然患腹而不消化。爾時山居有一薬神、将彼新出微妙甘美呵梨勒果、往詣仏所。……世尊食此呵梨勒後、腹内有病即得除愈。……為彼薬神。……即受三帰并及五戒、……一切薬神諸女天中、……最初為首作優婆夷。
- ⑥MV. (vol. III p.310 Jones III p.298)；世尊は四十九日の (saptasaptāhehi ekūnapaññāsaddivasāni) 断食の後、二商人の供養した飲物を飲まれたが、その時世尊の胆汁があふれた。そこで帝釈天がハリータキー樹 (harīṭakī) の実を「これで気分がよくなるでしょう」と言って差し上げた。

[C] 後世の仏伝資料

(1) この間の出来事と順序には様々な伝承がある。詳細は付表2を参照されたい。

【24-07】解脱を楽しむ——天女が糞掃衣を献じる

釈尊の苦行時代に自分の着ていた衣を布施した女が、死後に天女となり、改めて糞掃衣を布施する。そこで帝釈天(あるいは四天王)が洗濯石と水を化作する。

[A] 原始聖典

[B] 仏伝経典

- ⑮集経（大正03 p.803下）；爾時世尊、從彼差梨尼迦林出、安庠還至菩提樹下。（その頃その地方では病人多く、末期の病人を林中に葬送していた）而菩薩在苦行之時、於彼林内、有一婦女。名羅娑耶、氣猶未斷、……而其眷屬、棄捨委地。（菩薩の苦行を見て自分の糞掃衣を布施し、その後命終。その善根により三十三天上生、天の玉女となる。成道後王女天として糞掃衣を布施し、三歸並びに五戒を受ける）爾時世尊、……我今將此糞掃之衣、何処而洗。……帝釈天王、……化出一河、……更復化作三片大石。
- ⑯MV. (vol. III p.311, Jones III p.299)；世尊がウルヴィルヴァー (Uruvilvā) で苦行中、一人のガヴァー (Gavā) という名の洗濯女 (nagarāvalambikā) が「目的を達せられた時お使い下さい」と糞掃衣を差しだし、樹の枝にかけた。彼女は滅後、すぐに三十三天に再生した。そして天から下り、樹枝にかけた糞掃衣を取り「今やお使い下さい」と差し出す。世尊は糞掃衣を洗いたいと思われた。必要な水は帝釈天が必要な石塊は四天王によって提供される。

[C] 後世の仏伝資料